



しあわせの杜

しあわせ祈願の宮
本莊神社発行 第20号
〒500-8369
岐阜市敷島町9-24
honjojinja-gifu.gifu-city.net

氏神・産土神とは
本莊神社宮司 今津隆弘

近年、ご朱印ブームも相まって、神社が注目されています。私たちの本莊神社も毎週末、ご朱印を求めて参拝者が訪れ、その対応をしています。

テレビの旅番組では、その地域の歴史を探るため、神社や寺院を訪れるなど、神社や寺院は郷土の歴史を知るには欠かせない存在となっています。

全国津々浦々、どの町や村にも必ず神社があります。

地図を開けば、**■**が神社を指す記号で、寺院は**□**の記号で表されて地域のランドマークとなっています。神社や寺院は、日本人の「こころのふるさと」あるいは、人々の「こころの拠り所」と云われます。

神社は、地域社会の調和統合の

象徴として、寺院は、一族(家)の菩提を申う場所として敬われ、遠いご先祖様が神さま、近いご先祖様が仏さまと認識されてきました。「敬神

崇祖」と云う信心を育み、日本の長い歴史の中で、精神の核として日本文化を培ってきました。

◎神社の起源は自然の恵み

感謝する心から

日本の国は自然風土に恵まれ、春夏秋冬という「四季」があり、四季はその折々に私達の生活に潤いと恵みをもたらします。

その様々な働き、現象に靈性を認めて、神聖な靈力を感じ取り、それを「カミ」と称して崇めたため、「八百万の神」と称されるように多くの神々が生まれました。

神社は、こんもりとした森に囲まれてお祀りされています。昔から神社は「鎮守の杜」とも呼ばれてきました。

鎮守の杜という言葉には、神様を

お祀りする神聖な森という意味があります。

森は、きれいな空気、清らかな水、いろいろな食物、または生活に必要な資材など、様々な恩恵を私たちに与えてくれます。

私たちの先祖は、こうした自然の恵みに感謝して大切な森に神様をお祀りしました。そして、豊かで平和な毎日がおくれるように、神様に祈りや感謝を捧げ、神社の祭礼を行ってきたのです。

◎神社に祀られる神々

神社に祀られる神々は、自然神から人格神(祖神)、さらに天体の現象、氣象、万物創造の神「古事記」や「日本書紀」の神話に記される神々など様々な神々が祀られています。

◎氏神さま

氏神さまは、もともと祖先を同じく一族(氏族)が、その祖神や一族に縁の深い神さまを「氏神」としてお祀りしたのが始まりと云われております。

氏神は、「祖神」であり、「守り神」として、一族の暮らす村落を見守る秀麗な山などに祀られました。氏族の統率者を「氏上」と云い、氏人

を「氏子」と云い、氏上は氏子と共に村を治める一方、四季折々の共同祭祀の際は、氏子を率いて氏神祭祀を勤め、地域の平安と豊作を祈り、崇めてきました。

氏神は血縁集団「氏(氏族)」の祀る神として、七世紀頃成立したと言われています。

◎産土神さま

また産土神さまは、氏神さまの「血縁集団」の神に対して、産土すなわち、生まれた土地の神を云い、氏と云う結びつきではなく、同じ地域に暮らす人々「地縁集団」が共同で祀った神で、産土(うぶすな)は、生まれた土地の神、出生地の神を指します。

十一世紀頃、武家政権である鎌倉幕府が樹立すると、御家人が一族や家臣と共に新たな任地に赴いて定住した際、その土地に祀られていた神々を村落の拠り所として崇め、地域の守り神(土地神)として崇めたのがその呼称の起こりといわれています。

◎氏神が地域を守る神さまに

現在では氏神・産土神は、すべて地域を守る神となっています。また、

「氏子」という言葉も血縁に関係なく、地域を守る神を信仰する人の呼称になっています。

「氏子」という表現の中に、祭祀の伝統を継承しているのです。

理由は交通網の発達、大規模な土地開発、経済発展などが考えられています。交通網の発達はその移動を、大規模な土地開発は人の移動を、経済発展は都市部への人の集中を促しました。

つまり、人の動きが激しくなったことが、血縁集団で住むという生活スタイルを崩壊させました。そして、氏神を維持するために、血縁に関係なく、地域の居住者を受け入れるようになり、産土神や鎮守と同じように地域を守る神へと姿を変えて今日に至っているのです。

産土神は、「出身地の神さま」、氏神さまは「現在住んでいるところの神さま」、生まれ育った地域に住み続ける人にとっては、氏神⇨産土神なのです。



変わるもの(いつ)、
変わらないもの(いつ)の
中山道加納宿文化保存会

会長 尾関孝彦

古往今来、人の往来、物の流れは、街道が重要な役割を果たしてきました。それは、いつの時代も変わりません。

慶長五年(一六〇〇)関ヶ原の合戦に勝利し、天下統一を果たした徳川家康は、江戸に幕府を開きました。それにより政治の中心は、従来の京都大坂から江戸に移り、その結果、交通網が江戸から全国各地への街道の整備が進みました。そして、五つの主要な街道―五街道―の整備が進みました。

江戸、日本橋を起点として、東海道、中山道、甲州街道、日光街道、奥州街道が整備されました。これらの街道は、きびしい封建社会を構築するためには、陸上交通路の整備が必要でした。なかでも江戸と大坂を結ぶ、東海道と中山道は人流・物流の大動脈として重要な役割を果たしました。

現在は、東京と京都・大阪は東名

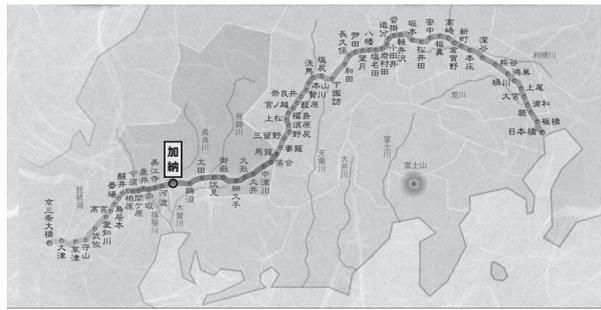
名神高速道路、また中央自動車道と同じように人流・物流の役割を果たしていることを見れば、東海道・中山道と同じではないでしょうか。

東海道は「海道」、中山道は「山道」とか「木曾路」とも呼ばれています。

ご存知のように、中山道六十九次は、江戸日本橋から、京都三条大橋に至る約一三五里四十町(異説あり)約五二八km。東海道五十三次より約四十km長く、宿場も東海道より多い。ところが、何故中山道を利用する人々が多かったのでしょうか。それは、東海道よりメリットがあったからです。東海道には大きな川―大井川、安倍川、天竜川―がありました。川は雨期のみならず、大雨が降れば増水し、渡ることができなく何日も川留めがあったと言われていました。それにより、旅程の計画を立てることが出来ません。

更に、今も昔も考えるのは宿賃です。中山道の旅籠の宿代が東海道に比べ二割ほど安価であったと言われています。東海道が「表街道」、中山道は「バイパス」のような「裏街道」のようなイメージがあるかも知れませんが、中

山道を利用する人々が多数いました。



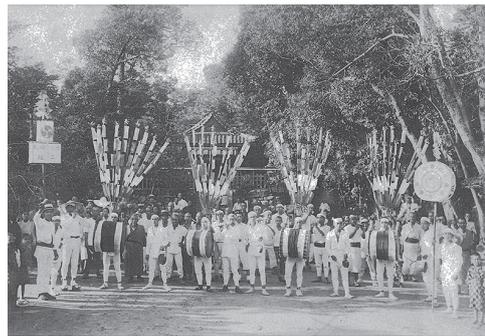
中山道六十九次

江戸時代、將軍の御台所(將軍の夫人)となる姫君は、將軍との婚禮が決まると、莫大な費用をかけた婚禮道具を携えて、主に中山道を利用し、京都から江戸へ下向しました。そのようなことから、中山道のことを「姫街道」とも呼ばれました。次号では、どんな姫君が中山道を通じたのか、またどんな人が中山道を通ったのでしょうか。ご紹介しましょう。(つづく)

五年目を迎えた本莊雨乞い踊り
本莊の歴史を語る会

会長 和田 浅治

今から数年前、本莊神社境内で見つかった一枚の古い写真から平成二十九年十一月に、約百年ぶりに復活した本莊の伝統文化「本莊雨乞い踊り」は、令和三年度におかげさまで五年目の活動を迎えました。



平成三十年四月の本莊神社春の例祭後に、「本莊雨乞い踊り」を約百年ぶりに奉納し、多くの参拝者の皆さんに披露することができ感動を得ました。

あれから五年目を迎えた令和三年度の「本莊雨乞い踊り」の取り組

みを社誌の紙面にてお知らせいたします。

さて五年目を迎えた「本莊雨乞い踊り」は、本莊の伝統文化として徐々に地域全体に根差してきた感が最近しています。それは、本莊小学校で毎年伝統文化に触れようとする子ども達の参加数の増加が物語っています。年々参加者が増えてきて主催する本莊の歴史を語る会の会員も、驚いているほどです。

現在まで行っている活動は、まず小学校での「ふるさと学習」授業で、地域の伝統文化「本莊雨乞い踊り」の歴史や文化を伝えることから始まり、本莊公民館での毎月の練習(太鼓、篠笛、鉦、唄、踊り)で「本莊雨乞い踊り」を実技で教え、年度末に一年間の練習成果を関係者を集め披露する「成果発表会」の実施等で一連の年間を通じた文化活動の本莊小学校の協力を得て行うことができています。ただ、令和三年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で、学校の前期のクラブ活動は、休みを余儀なくされましたが、後期になってそれも解除され、練習に励むことができました。子ども達も

一生懸命「本莊雨乞い踊り」の練習に励みました。

ところで、「本莊雨乞い踊り」は、おかげさまで五年連続文化庁の「伝統文化親子教室」事業に合格し国からの熱い伝統文化継承へのご支援を受けています。さらに、五年目は、バローの伊藤青少年育成奨学会の地域振興助成事業関連の支援でも受理され「本莊雨乞い踊り」の伝統文化継承を後押ししていただきました。

また、令和三年四月には、多羅野八幡神社奉納行事にも参加でき、ケーブルテレビ局のニュースでも取り上げられました。



さらに、本莊神社春の例祭後、五

年ぶりに「本莊雨乞い踊り」の奉納が行われる予定です。



今後の計画として六年目の取り組みでは、コロナが終息していることが条件で、小学生の運動会や自治会主催の「ほんじょう文化祭」、令和四年十二月の岐阜県主催の「岐阜県ジュニア文化祭」への出演も計画されています。

こうして五年目を迎えた「本莊雨乞い踊り」は今後ますます本莊地域に根差した伝統文化として継承されていくことが期待されていますので、地域の皆さんの暖かいご支援をいただきますようお願い申し上げます。

県立岐阜商業高等学校硬式野球部

必勝祈願祭参拝

県立岐阜商業高等学校硬式野球部の鍛冶舎巧監督を始め、選手、保護者ら約百名が、一月四日に必勝祈願を行いました。

当社での必勝祈願祭は、令和元年以来、四回目。年末の「御礼参り」、年始には「必勝祈願」と丁寧な参拝をされています。

「祈願」「感謝」の気持ちを忘れず参拝される姿勢は、きつと素晴らしい結果をもたらすのではないのでしょうか。

夏の甲子園出場を目指し、是非ともがんばってほしいと思います。



神社からのお知らせ

◆これからの行事について

- 二月五日(土) 午前十時 月次祭
- 第六十一回学べる神社講座
- 二月十七日(木) 午前十時 祈年祭(豊作祈願)
- 三月五日(土) 午前十時 月次祭
- 第六十二回学べる神社講座

○四月三日(土) 午前十時 月次祭

第六十三回学べる神社講座

○四月五日(火) 午前十時 例祭(春季大祭)

鱗餅奉献

雨乞い踊り奉納

○五月七日(土) 午前十時 月次祭

第六十四回学べる神社講座

○六月四日(土) 午前十時 月次祭

第六十五回学べる神社講座

○七月二日(土) 午前十時 月次祭

夏越祭(茅の輪くぐり)

○七月二日(土) 午後五時

※四月五日の巫女舞奉納は中止となります。

※コロナ感染拡大の際は、境内での模擬店及び、各種奉納行事は中止となります。



しあわせ祈願の宮

本莊神社

ご祭神・ご由緒 | しあわせ祈願の宮 | 年中行事 | お礼・お守り・ご朱印 | アクセス

『しあわせ祈願の宮』本莊神社の公式ホームページです

Find us on **facebook**

ご祈祷のお申し込みはこちら

① **ご祈祷お申し込み**

出張ご祈祷お申し込み

本日の日付
令和3(2021)年

本莊神社へのお問い合わせ電話番号：058-201-5381

ニレイ コサンハイ

【令和3年祭典予定】

1月 1日	午前10時	歳旦祭・四方拝	毎月第1土曜日	午前10時
1月14日	正午	左義長神事		
2月17日	午前10時	祈年祭	1月2日、2月6日、3月6日	
4月 5日	午前10時	例祭	4月2日、5月1日、6月5日	

【月次祭】

ご祈祷お申し込み書

公開日：2021年3月6日 | 最終更新日時：2021年3月6日 | カテゴリ：ご祈祷・出張祭

【ご祈祷お申し込みフォーム】からお申し込み下さい

② **ご祈祷お申し込み書**

ご祈祷希望日時 時刻

日 時
午前 時 分 / 午後 時 分

〒 -

ご住所

連絡先(電話番号)

郵便料 円

連絡欄

③ **確認画面へ**

① 【ご祈祷お申し込み】をクリック
※モバイル版は下にスクロールしていくとあります

② 【ご祈祷お申し込み書】を記入

③ 【確認画面へ】をクリック

ホームページはこちらから

<http://honjojinja-gifu.gifu-city.net>



お電話でのお申込みも受け付けています

058-201-5381

ご祈祷受付のご案内

本莊神社では、様々なご祈祷を受け付けています。
予め、電話連絡にて日時の調整の上、ホームページのご祈祷申し込みフォームにてお申し込み下さい。

【ご祈祷の願ひ】

- 家内安全
- 商売繁盛
- 旅行安全
- 初宮まいり
- 七五三
- 病気平癒
- 縁結び祈願
- 自動車お祓い
- 厄除け
- 安産祈願
- 心願成就

【出張ご祈祷】

- 地鎮祭
- 開店祓い
- 竣工祭

その他、ご相談下さい。

皆様のご意見・ご要望をお聞かせ下さい。
本莊神社社務所連絡先
〇五八二〇一一五三八一